

## それぞれの春 東部大会の勝負

変わらぬ意思「東部大会こそ！」

どこの高校でもかまわないが、必死に頑張る高校生の姿は見ていてうれしくなる。正直、高校の派閥などさらさら興味が無い。春高でも、春日部東でも、越谷西でも、どこでもいい。「ああ、頑張って練習してきたんだろうな・・・」という子供たちを見ると、感動してしまうのだ。

そして春高は何を目指すのか・・・この答えは無限にあるのだろうが、私は「毅然と胸を張れる高校生であれ」・・・といいたい。

つまりは身の丈にあった「達成感」を得る事が最大の目標ではないだろうか。マスメディア的には、東京大学に何人進んだか、インターハイで何位になったか・・・という究極の目標も大事だと思う。しかしそれは全員が到達できるものではない。

目標とする大会に向けて、どんな練習をして、その結果が目標に対してどうであったか・・・それこそが「充実感」「満足感」という、代替できない感動を生むのだと考える。高校時代のかげがえのない熱い思い出は、大人になってからでは二度と出会えない。

だから東部大会は重要なのだ。

### 新人3位からの教訓

東部新人総合1位 越谷西 100点  
2位 春日部東 91点  
3位 春日部 89点

大塚さんの胸中には、東部新人総合3位の解析がなされ、どこをどうして冬季を過ごすか・・・というビジョンが描かれていたのだと思う。

昨秋は400mHでの高石の転倒が大きな誤算であったかな・・・と、私は思った。7点の損失だった。しかし、どこの高校もそれはついてまわる。予想外の失点、得点は想定せねばならないのだ。

### 黒須の故障

3日目の日曜日、競技場で嵯峨根さんに聞いて驚いた。  
「黒須は欠場だって！肘痛。」



えーっという感じだった。まあ、インターハイでピークを迎えるため、危険を犯したくなかったという堅実な作戦だろう。しかし8点の損失というのは痛いかな・・・という思いだ。男子200mでは2年生エース吉澤の膝痛による欠場。新人では22秒90で4位に食い込んだ選手。今回は大事をとって、400mRのみ。

しかし、3年生の小白河と長谷川が奮起。2人決勝進出を決めた。これできちんとパートの補填をなした。

決勝では長谷川4位、小白河8位と計6点を叩き出した。

5000mでは大久保が順調な伸びを見せた。昨年1年生ながら5000mで15分台をマーク。今年は3000mSCでも大幅更新。新2年生ながら9分47秒で2位につけた。渡辺も8位入賞。貴重な得点を果たした。



同じく2年生の齊藤も5000m15分台突入を果たし6位。



今年の秋は駅伝も好記録が期待できそうだ。

### 平井の故障

春高に「r」をつれて練習にいった3月。跳躍の平井と話す機会があった。彼がぼつりつつぶやいた。「いやあ・・・ケガしちゃって・・・」

新人の幅跳び、三段跳びで両方入賞を果たしている平井の脚が心配であった。





当日は、やはり精彩を欠く跳躍となってしまった。右脚を痛めている様子。幅跳びでは何とか得点してくれたが、三段跳びでは無念の敗退であった。

しかし高跳びで菅佐原が4位入賞。こちらでカバーを果たした。平井には何とか県大会までに復調して、力を出し尽くして幅跳びに臨んでもらいたいと願うばかりだ。



総合は・・・

最終日、どのレースを見ても越西が2名決勝に残っていて、二日目までの春高のリードが危ぶまれた。

どうやらマイルレース次第ということが分かってきた。越西が1着で春高が8位なら逆転負けか・・・と。

しかも今大会、越西は3人400mで入賞している。絶対的優位は動かない。春高は200mで4位の長谷川が出られない。新人戦のアンカーの吉澤もいない。主将の小白河(200m8位)に頑張ってもらい、800m、1500mで入賞を果たした野村にアンカーを託す布陣となった。

決勝では、狙い通り110mH, 400mHの高石が快走してくれた。



アウトコースを一気に飛ばしてリードを確保。主将の小白河が意地の走りを見せる。



青木がつないで、アンカーの野村に全てを託した。



800mの選手らしく好走する野村。



15m先行する3位には届きそうも無いので、4位キープという安全策を決めたようだ。



がんばれ！・・・うまく4位集団を抑えて野村がゴール！！後半にはさすがにスタミナがある。



さあ、総合は！？・・・

大塚さんがグラウンドから「勝ったよ」と教えてくれた！「やったーっ。」  
工藤さん、嵯峨根さん、生原さん、末松、森丘、らOBは歓喜の声を上げた。  
工藤先輩は越西の校長でもあるから複雑であるそうだが、女子は初優勝に沸  
いているという。長年続いた久喜高校時代に終止符を打つ素晴らしい勝利で  
あったのだ。工藤さんは言った。「いやあ、春高はすごいよ。あれだけの忙  
しさの中で優勝するんだから・・・」。

#### 総合結果

- 1位 春日部 92 点
- 2位 越谷西 88 点
- 3位 花咲徳栄 82 点
- 4位 春日部東 82 点

どこが勝ってもおかしくない、  
接戦であった。監督達は毎日の  
仮想点数予測に苦慮したこと  
であろう。この点数差では  
誰かエースが1人ケガで離脱  
した途端に、優勝戦線からこ  
ぼれてしまうのだから。  
春高は優勝種目は400mH  
だけ。まさに総力戦の戦いで  
あった。



閉会式で喜ぶ後輩たち、総合杯を渡す竹村先輩。県では再起を誓う黒須。み  
な晴れやかな笑顔で  
あった。

私は後輩たちに言っ  
た。「ホームページ  
の表紙は、総合優勝  
したチームしか乗せ  
ないからね！」3年  
生は驚き、2年生は  
喜んだ。





今後、優勝できなければ、ずっとこの写真のままだし、来年早々に変わるかもしれない・・・！



### 2年連続25回目の優勝

嵯峨根さんの時代の優勝以来、取れなかった総合杯。1点差で逃す・・・という辛酸を幾度もなめた。

これを奥岡らが27年ぶりに奪還し、昨年も勝った。奥岡、後藤のスター軍団だから勝ったのではなく、チーム力であることを照明した。



### 過去の優勝校

年	月	男子	女子	年	月	男子	女子	年	月	男子	女子
26	4	春日部	一	47	4	春日部	岩槻商	5	4	春日部東	八潮
27	4	"	越谷	48	4	"	春日部女	6	4	"	久喜
28	4	"	春日部女	49	4	"	岩槻商	7	4	"	"
29	4	"	"	50	4	"	"	8	5	越谷南	"
30	4	"	"	51	4	"	"	9	5	"	"
31	4	"	越谷	52	4	"	久喜	10	4	春日部東	"
32	4	"	"	53	4	"	"	11	4	"	"
33	4	"	久喜	54	4	"	"	12	4	"	"
34	4	"	越谷	55	4	不働岡	"	13	4	"	"
35	4	"	"	56	4	"	"	14	4	"	"
36	4	中止	中止	57	4	草加南	草加南	15	4	久喜北陽	"
37	4	春日部	越谷	58	4	三郷	久喜	16	4	春日部東	"
38	4	"	春日部女	59	4	"	三郷	17	4	春日部	"
39	4	中止	中止	60	4	"	"	18	4	春日部東	"
40	4	春日部	越谷	61	4	春日部東	久喜	19	4	"	"
41	5	"	"	62	4	"	久喜	20	4	春日部	"
42	4	越谷	"	63	4	"	"	21			
43	4	"	"	元	4	八潮	"	22			
44	4	"	久喜	2	4	春日部東	"	23			
45	4	"	"	3	4	"	"	24			
46	4	"	"	4	4	"	春日部東	25			

今回、8点を期待されながら、故障を避けるため休戦した黒須。  
この写真は、「休ませてもらってごめん・・・県ではがんばるから！」  
という意味があるらしい。(笑)





天候同様、実に晴れ晴れしいみな笑顔であった。  
春高は良いチームだ。

筆 撮 のもと